

放送日 令和元年8月1日(木)

担当者 小中一貫・教育施策推進課長 富田 英禎

おはようございます。小中一貫・教育施策推進課長の富田英禎です。

今日から明後日まで、全国コミュニティ・スクール研究大会に出席するため、広島県府中市へ行ってきます。

平成29年4月の法改正により、公立学校への学校運営協議会の設置が努力義務となったことにより、全国で学校運営協議会を設置した学校、「コミュニティ・スクール」は飛躍的に増えています。

今回出席する研究大会では、全国各地の実践例を学び、来年度から学校運営協議会を設置する各中学校区へ還流する材料を提供できればと考えています。

新しい学習指導要領は、学校教育を通じて子どもたちが身につけるべき資質・能力や学ぶべき内容、学び方の見通しを示す「学びの地図」として、教職員のみならず子ども自身が学びの意義を自覚する手がかりとしたり、家庭・地域、民間企業等において幅広く活用したりできるようにする、「社会に開かれた教育課程」を目指しています。

保護者や地域の方が総がかりで学校や子どもと関わっていくことで、未来予測が困難な子どもたちの生きる力を育むことができ、地域とともにある学校づくりをしていくこととなります。また、地域の活性化のためにも教育の力は大切であり、教育の力で地域を変えられるのではないかと考えています。

職員の皆さんの中には、すでに自分の子育てから卒業された方もいると思いますが、地域住民や学校運営支援者として、北広島の子どもたちのために、できる範囲で関わってみてはいかがでしょうか。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年8月2日(金)
担当者 社会教育課長 吉田 智樹

おはようございます。社会教育課長の吉田です。

今日は「ふるさと」についてお話ししたいと思います。

北広島市が「ふるさと」と言える職員の方は何人いるでしょうか。

ご存知の方もいると思いますが、私のふるさとは知床半島羅臼町です。車で帰ると7時間から8時間ほどかかるのですが、以前友人が韓国に旅行するため帰省するついでに千歳空港まで送りましたが、羅臼に向かう途中友人から「韓国に到着した」との連絡が入り「韓国より遠いのか」と憤ったこともありました。

知床とはアイヌ語でシリエトク呼び、その意味は「大地の行きづまり」「地の果て」ともいわれることを痛感したことを覚えています。

私もそんな地の果ての田舎から飛び出たくバタバタしていました。今では大好きな魚も、当時は顔も匂いも正直、好きとはいいがたく、世の中で一番高級な食べ物は牛肉だと信じていました。

高校で旭川に進学しましたが、友人の親がお寿司をご馳走してくれるということで「好きなものを食べなさい」と言われたので、はじめから高いものほと思い「ウニお願いします」とお願いしたら「のっけからウニかっ！！」とどやされました。

今では年に一度食べられるかわからないウニもその頃の私にとっては、海に落ちている激安商品だと思っていたとは、まったくお恥ずかしい限りです。

さて、人はそれぞれに歴史があり、田舎であれ、都会であれ、心の片隅に「ふるさと」を持ち続けていると思います。

住んでいる年数が羅臼よりも北広島のほうが長くなったこの歳になっても、羅臼の海や羅臼の山、時には流氷やトドまで、夢に出てきます。

生まれ育った体験や経験は体の一部に刻まれているんだなぁと実感します。

私たち職員はいまこの街に生れ、この街に育った子供たちの体の一部に刻まれる「ふるさと」というまちづくりを担っています。

私たち自身が志を抱きながら、それぞれの部署で、真摯に市民の声に耳を傾け、しっかりと課題に向き合い、「ふるさは北広島市です」と子供たちが自信をもって言えるような、そんなまちづくりを職員一丸となって進めていくことが大切だと感じています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年8月5日(月)
担当者 学校給食センター長 須貝 初穂

おはようございます。給食センターの須貝です。

日本の物理学者であり文豪である寺田寅彦の「天災は忘れたころにやってくる」という名言は、天災はめったに起こらないという常識を疑い忘れた頃に天災は起こるとい警告を発した言葉ですが、めったに起こらない天災を職員となって2度体験した私の体験談を、職員最後のスピーチとしてお話ししたいと思います。

1度目は、私が職員2年目の昭和56年8月、前線と台風から変わった温帯低気圧の影響で、道内の広い範囲で大雨となり、石狩川流域では500年に1度とされるほどの大雨となったことから本流・支流が各地で決壊し、本市(当時は広島町)でも市内を流れる河川が氾濫し濁流が市街地に流れ込み、広範囲が浸水する大水害となりました。当時、施設の見回りや土嚢積み、床上浸水した家屋からの人命救助など、仮眠もそこそこに3日間に渡り災害対応に当たったことを思い出します。また、その年は同じ月の下旬の台風による大雨災害もあり、あわせて「56水害」と呼ばれています。

あれから37年、多くの職員の皆さんも経験された昨年9月の台風と地震のダブル災害は、定年まで2年と迫った私にとって2度目の天災でした。台風による被害の爪痕が生々しく残る中、翌朝には北海道で初めて震度7を記録した胆振東部地震に襲われました。

震源地は厚真町でしたが、その激震地の中に私の実家がありました。私事になりますがあの地震で同級生やその両親、知人が犠牲となってしまったのですが、幸いにも一人暮らしの母親はそのうちの一人にはならず一安心でした。しかし震度7の破壊力は凄まじく、多くの思い出が染み込んだ実家は全壊判定を受けたことで居住の継続はままならず、今年の5月には解体され更地となってしまいました。

2年目の水害、定年まであと2年での台風地震と2つの災害、これが2度の天災体験であり、2という数字が導く奇跡が未来の予言とならぬよう、寺田寅彦の警句を忘れてはならないとあらためて感じたところです。

近年、防災リスクが高まり、リスクに備えた防災対策整備は重要な課題です。天災は忘れたころにはやってこないかもしれませんが、災害に強いまちづくりを進めるには、新たなステージに対応した防災・減災のあり方を考え、従来の観点からではなく、社会変化を踏まえた新たな防災の進め方が必要ではないかと思い、私の体験をお話しさせていただきました。

気持ちの良い挨拶は職場に笑顔をもたらし、親切な市民対応は市民に笑顔をもたらします。職員皆さんが心に抱く大志を結集し、今日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年8月6日(火)

担当者 エコミュージアムセンター長 平澤 肇

おはようございます。教育部エコミュージアムセンター知新の駅の平澤です。

エコミュージアムセンターは、博物館のようなところで、まちの歴史や自然などに関する展示をしているほか、北広島市について学ぶことを目的に、市民大学や企画展、ガイドツアーなど、さまざまな事業を実施しています。

現在は「世界の昆虫大集合」という企画展を実施しており、外国の珍しい昆虫の標本などをたくさん展示しているほか、子どもたちがカブトムシやクワガタに自由に触れる、「虫の家」というコーナーも設けています。

また、この企画展に連動する形で「昆虫標本を作ろう」という子ども向けの講座や、「クワガタムシ・カブトムシ採取教室」など、体験教室なども実施しています。

展示する虫や、標本にするための虫を確保するため、職員で虫取りに出かけるのですが、今年は7月に気温が上がらず、クワガタやカブトムシのオスがなかなか出てきたくれず、何度も採取に出かけることになりました。

私も夕方にトラップを仕掛け、夜に何度も虫取りに出かけましたが、大変だった反面、子どもの頃は全く取ることができなかったカブトムシを捕まえることができ、なんだか年甲斐もなくうれしい気持ちになりました。

そして、私が取った虫を、子どもたちが興味深げに観察したり、触ったりしているのを見ると、苦勞したけど取ってきてよかったなあ、という気持ちになります。

センターでの体験事業をきっかけに、子どもたちが生き物や自然に興味を持って外に出るようになり、この北広島のまちに思い出や愛着が生まれ、まちを好きになる。そうなる嬉しなと思ひ、この業務にあたっています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年8月7日(水)

担当者 文化課長 丸毛 直樹

おはようございます。教育部文化課長の丸毛です。

本日は、私が勤務しております芸術文化ホールのお話をさせていただきます。

皆様ご存じのとおり、「花ホール」の愛称で親しんで頂いている芸術文化ホールですが、平成30年度の利用者は、92,546人であり、芸術文化活動の発表や鑑賞の場として、また会議・研修などの会場として、多くの皆様にご利用頂いているところであります。

そんな花ホールですが、特にホールでの催し物の際に、お客様をお迎えしている「花ホールスタッフの会」の皆さんについて、ご存じでしょうか。

「花ホールスタッフの会」の皆さんは、ホールでの催し物の運営をサポートすることを目的に設立されました、ボランティアスタッフの団体であります。

芸術文化ホールのオープンを控えた平成10年、ボランティアを希望される方を募るために、養成講座をスタート致しました。この講座がきっかけとなり、翌年の平成11年4月「花ホールスタッフの会」を設立され、活動を展開、本年を持って設立20周年を迎えられたところであります。

活動内容ですが、ホール主催事業などの開催時に、お客様の入場券の確認やプログラムの配布、座席へのご案内の他、バーコーナーの運営、会場内のアナウンス、ステージの大道具のセットなど、施設職員だけでは進めることの出来ない多彩な内容を、ボランティアとしてサポート頂いております。

このような活動を行う、ボランティアの皆さんですので、情報の共有はもとより、研修も怠ることなく、活動のレバルアップに努めておられるところであります。

今では「花ホールの顔」とも言うべきスタッフの会の皆さん、これからも芸術文化ホールといたしましては、この大きな市民パワーによる活動に対しまして敬意を持って支援させて頂きたいと考えております。

なお、「花ホールスタッフの会」の皆さんは、これらの活動の功績が認められ、本年度北広島市功労賞を受賞されることとなりました。誠に、おめでとうございます。

皆さんの長きにわたる活動、本当にありがとうございます。

今後とも、北広島市の芸術文化活動の推進のため、変わらないサポートを、よろしくお願い致します。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年8月8日(木)
担当者 図書館計画担当参事 新谷 良文

おはようございます。図書館の新谷です。

たまには本のお話をしないと、本当に専門職かと疑われそうなので、今回は本と読書のお話をします。

国や地方自治体は子どもの読書活動振興に力を入れていますが、その一方で、私たち大人の読書はどんな状況なのかが気になり、ちょっと調べてみました。

平成25年に16歳以上の男女約2000人を対象に行った文化庁の「国語に関する世論調査」によると、月に1冊～2冊読むという人の割合が多く約35%、3～4冊の人が11%、あと、それ以上は7%の割合でした。

そして、月に1冊も本を読まないと答えた人の割合が47%、約半分の割合でした。今聞いているあなたが月に数冊程度の読書を楽しむ人であれば、両隣の席の人は本を全く読まない人となります。社会の中で、本についての会話がなかなか生まれてこないのもわかる気がします。

ちなみに、今の読書の中には電子書籍の使用も含まれていて、30歳代までの電子書籍利用率は約半分の割合に迫る勢いです。

電子書籍の利点は、①読みたいと思った本をすぐ読めること。②荷物にならないこと。③どこでもすぐに読めることなど、とされています。たしかに、「購入する」というボタンひとつで、すぐに読めるようになってしまうのは便利というか、コワイというか。

ぜひ、みなさんもスマホ感覚で電子書籍を試してみてください。また新しい世界が広がるかもしれません。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年8月9日（金）

担当者 消防署西の里出張所長 佐々木 幸一

おはようございます。消防署西の里出張所長の佐々木です。

7月末から蒸し暑い日が続いていますが、夏バテしていませんか？「健康第一！」
みなさん計画的に休暇を取得し、好きなことをしてリフレッシュしてください。

私は、仕事をするうえで、心と身体からだの健康を保つことが一番大事だと思っています。

そして、今日も一日、事故なく怪我なくよろしくお願いします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年8月13日(火)
担当者 消防署大曲出張所長 和知 真人

おはようございます。消防署大曲出張所長の和知です。

私が勤務している消防大曲出張所は、大型商業施設や工業団地の造成などにより近年メキメキ発展している、市内西地区の消防を担っています。

私たち消防隊員は、人が逃げてくるところが仕事場となります。凄惨な現場や恐怖を感じる現場、時には罵声を浴びながら活動することもあります。

どんな状況でも迅速的確な活動を行うためには日々の訓練はもちろん、隊員相互の信頼関係がとても重要です。

みなさんの職場でもチームワークは重要だと思いますが、危機迫る消防の現場は、一人では困難な活動もチームで対応することでその効果を何倍にもすることができます。そんな現場での活動を円滑にするために私が最も重視していることは職場の雰囲気です。

消防隊員は24時間仲間とずっと一緒にいなくてはなりません。これはいろんな意味で凄いストレスです。

人間ですから24時間緊張し続けることはできないので、仕事の合間に趣味についての談笑をするなど当直勤務の中にもメリハリができるよう配慮しています。

また、ベテランから若手へ知識と技術を積極的に伝承したり、若い職員の柔軟で新しいアイデアを消防戦術に反映したりと相互に意見交換を行える活気ある職場を目指しています。

このように、雰囲気の良いチームつくることが良い活動繋がるものと信じてこれからも活気ある職場を目指していきたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年8月14日(水)
担当者 消防署消防2課長 郷路 忠明

おはようございます。消防2課長の郷路忠明です。

4月から消防署の消防2課長となり、4年ぶりの現場復帰であります。日勤の予防課長時代と違い24時間勤務となり、家族を含めて生活リズムが大きく変化しましたが、現在は隔日勤務に慣れてきたところであります。また、異動直後は、現場活動のブランクと高年齢による体力低下や判断力の鈍さを痛感していました。

話は変わりますが、消防の任務は、国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から守ることです。任務からすると、私達消防士にとって仕事が無い(災害が無い)ことが市民にとってとても有益であり、幸福なことです。

しかしながら、何故か4月からハイペースで大規模な火災が多発しており、7月末現在で昨年の火災件数14件を超え17件発生しており、市民の方の幸せが失われてしまっています。

先日、市内の小学校4年生の消防署見学があり、生徒の皆さんからお礼の手紙をもらいました。子供達にとって消防は、警察と同様に街を守ってくれる頼もしい人です。手紙の内容には、「消防の人は市民を守るために頑張っている。」、「大きくて重たい資機材を取り扱って凄く体力がある人達。」、「どんな環境でも助けてくれる人」、「服を着て仮眠をとり、直ぐに災害現場に駆けつけてくれる大変な仕事。」などの期待と労をねぎらう激励の言葉が書きつづられていました。

その言葉を裏切らない消防人でなければいけないと改めて実感し、これからも、災害から人々を守り、市民の希望の光をたやさないようにしていきたいと思えます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年8月15日(木)
担当者 消防本部警防課長 後藤 英雄

おはようございます。消防本部警防課後藤です。

昨年9月に発生した台風や胆振東部地震からもう少しで1年を迎えようとしています、当時の教訓として電気の使用しない灯油ストーブや乾電池式の照明、発電機等を購入した方も沢山おられると思います。

燃料の灯油やガソリンの保管について説明いたします。

灯油は灯油専用のポリ容器に屋内では200リットル未満になるように保管してください、積み重ねや直射日光に当たらないよう冷暗な場所での保管をお願いします、屋外のホームタンクからの抜き取りや自作の小分け配管は漏れの原因になることから止めましょう。

ガソリンの保管は専用容器に40リットル未満になりますので必要以上の保管はやめましょう。

また、カセットコンロのガスボンベも大量に購入保管していると思いますがこれも使用期限があることから注意して下さい。

色々伝えましたが、分からないことは消防本部予防課へ問い合わせして下さい。

地震や停電に備えて3日分の水や食料、避難所での生活用品の保管は年に一度内容を確認して消費期限があるものは入れ替えをすることで災害に備える心構えにもなります。

我々職員は災害が発生すると何日も自宅に帰ることができなくなることから家族には保管している場所や使用方法も伝えましょう。

これから台風シーズンが来ます、昨年の教訓を生かして行動しましょう。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年8月16日(金)
担当者 消防署救急企画課長 奥田 克治

おはようございます。消防署救急企画課の奥田です。職員の皆さま、日頃から消防業務全般に御理解と御協力いただき誠にありがとうございます。

本日は担当している業務について紹介させていただきます。当課は主査1名とスタッフ1名で、主に救急体制の強化と応急手当普及啓発活動を担当しています。応急手当普及啓発とは各種救命講習のことで、職員の皆さまも何度か講習を受講していることから、その必要性和重要性は理解されていることと思います。

救急体制の強化に関しましては、別名メディカルコントロールとも言われ、日本語に置き換えると「病院前救護の質を担保するため、医学的に検証するシステム体制」と習ったことを思い出します。

「救急救命士制度」は平成3年から始まり世の中に浸透してきましたが、現場で実施できる処置は当初と比べると様変わりし、気管挿管、アドレナリンやエピペンなどの薬剤の使用、心臓停止前の点滴や低血糖の傷病者にブドウ糖の投与ができるようになっております。

そのような中、北広島市は道央圏の中で「石狩・後志地方連絡協議会」に参加し、管内9消防本部の一員として、札幌医科大学病院の協力を得て「各種研修会」、「病院実習」、「医師による救命士に対する24時間の指示体制」、「活動後の事後検証」等を通じて、より高度化している処置に対して医学的な確認をしています。

本年度はこの協議会の副事務局、来年度は主事務局になる予定で、9消防本部と協力し合いながら、特別教育の運営調整も含め、石狩・後志管内全体で救急隊員の更なる向上を目指し取り組んでいます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年8月19日(月)
担当者 消防本部総務課長 鈴木 靖彦

おはようございます。消防本部総務課の鈴木です。

本日は消防行政のアウトラインについて説明させていただきます。

北広島市内の平成30年中の認知件数につきましては、火災が22件、救急が2,166件、救助が48件、まちがい電話が187件、いたずらが12件等となっております。

救急や救助案件につきましては、不慮の事故や急病等不可抗力な要素がありますが、火災につきましては人災による部分が多いと考えられます。

「予防は治療に勝る」のことわざどおり、今後は設備の査察や保安業務など、火災予防を中心とした活動が重要になっていくと思われます。

市内の人口自体は減少しておりますが、人口構成では高齢化が進んでおり、また、ボールパークの開業等も控えていることから、消防・救急業務はますます重要化すると考えております。今後も引き続き地域住民の生命・財産を守るべく努力を重ねてまいります。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年8月20日(火)
担当者 消防署消防1課長 小室 秀治

おはようございます。消防1課長の小室です。

今年、消防職員として34年目を迎えました。

私が採用された昭和60年は、日航機墜落事故があった年でもあり、毎年、この時期になると御巢鷹山での慰霊祭が中継され、当時感じたやるせない思いと駆け出し消防士としての不安が今でもよみがえってきます。

そんな消防生活の中で今感じていることを今日はお話しさせていただきます。

皆さんもご存知のことと思いますが、消防の仕事の中に「消防訓練の指導」というものがあります。一般的に、「避難訓練」と言われているものです。

消防職員が事業所などに伺って消火や通報、避難誘導の方法などを保育園や幼稚園から工場や福祉施設にいたるまで規模や業種に応じて年間400件ほど指導や助言を行っています。

この避難訓練ですが、自分自身も気がつけば幼少の頃から学校行事として年に数回、当たり前のように実施していた記憶があります。

自分が消防職員となり訓練を指導する立場になったときに始めてその行動を客観的に見る事が出来ました。保育園や幼稚園で教わった避難訓練の教えが小学生、中学生さらに社会人になってもそれぞれの年代でしっかりと、身につけていることを実感しました。

いざというとき、的確で迅速な判断で行動することはなかなか難しいことではありますが、訓練を繰り返し実施することで「自分は何をすべきか」、「どこに避難すればいいのか」、「どういう対応をすれば被害を最小限に抑えられるか」など、状況に応じた判断力や行動力を身につける事が出来ます。

過去の災害をみても、すばやい避難行動が人命を守るために役立った事例が数多くあります。

今後も消防訓練を通じて、避難行動の重要性や大切さをもっと伝えて行ければと思っています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年8月21日(水)
担当者 消防本部予防課長 大山 義幸

おはようございます。消防本部予防課長の大山です。

私の所属する予防課は、消防法等に基づき建築物等の立入検査や消防検査・危険物施設や危険物輸送車両などの検査を行い、その字にあるとおり火災を「予め防ぐ」ことを目的に業務を行っています。

皆さん、今年市内で何件の火災が発生しているかご存知でしょうか？今年には既に17件と昨年同期を9件上回っており、建物火災が11件、車両火災が4件、その他火災が2件と、昨年より建物火災(昨年5件)が著しく増加しております。

平成30年版消防白書によると全国での建物火災の出火件数を用途別に見ると住宅火災が最も多く、住宅火災による死者数は、例年火災による死者数の8割前後を占めています。また、住宅火災による死者については逃げ遅れによる死者が多いこと及び概ね7割程度を高齢者が占めている特徴があります。高齢者や逃げ遅れによる住宅火災の死者を減らすためには、火災の発生を早く知る事が重要であり、当市では平成20年6月より全ての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務化されました。

皆さん、住宅用火災警報器にも寿命があるのをご存知でしょうか？住宅用火災警報器は10年経過すると電池切れや電子部品等の寿命により電池交換や本体の取替が必要になります。また、現在設置されている機器が正常に作動するか確認されていますか？確認方法は簡単です。機器についている点検ボタンを押すか、点検用の紐を引っ張ると正常に作動している事を知らせるメッセージや警報音などの反応があります。反応がない場合は、電池切れや機器その物が故障している事が考えられ火災を感知する事が出来ない危険な状態です。取扱説明書を確認し問題があれば電池交換又は本体交換をお勧めします。皆さまの大切なご家族、財産を守る為に住宅用火災警報器の設置や定期的に作動試験・交換を行いましょう。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年8月22日(木)
担当者 消防署救急課長 宍戸 靖

おはようございます。消防署救急課の宍戸です。私が現在の部署に異動して5ヵ月たとうとしています。今日は、救急課の紹介と簡単に北広島市の救急の現状をお話したいと思います。救急課は私を含め総員19名で2隊の救急車を運用しています。その中には現場で重症な傷病者の呼吸管理、輸液などの高度な医療行為が行える救急救命士が12名、今後現場で活躍するために先輩救命士の指導を受け技術を学び経験を積んでいる若い救命士が2名、一人でも多くの命を救うために日夜訓練に励んでいます。

平成30年の救急出動件数は2245件、搬送人員2027人を医療機関へ搬送しました。その中には意識、脈、呼吸の無い重篤な方から会話可能で自力歩行可能な方まで様々な症状の方がいらっしゃいました。当然、意識、脈呼吸の無い方は最優先に医療機関搬送の対象となりますが、それ以外の方で医療機関へ搬送され医師の診察を受けてその日のうちに帰宅される軽症の方が約半数いらっしゃいました。全国平均でも約48%となっていて年々、救急車の現場到着時間、医療機関収容時間の遅れにつながっていると思われ、今後も継続して救急車の適正利用を訴えて行く必要があると思います。

当市のもうひとつの特徴として、市外搬送が80%を超えています。理由として北広島市は札幌市に隣接しており、急性期の循環器疾患、脳疾患、緊急な開腹手術が必要な重症疾患等に対応可能な救急病院が隣接する札幌市に多く存在するためです。傷病者の予後を考慮し救命するためには若干、搬送時間が長くなっても適切な専門治療を受けられる医療機関へ搬送することが望ましく、今後も傷病者の症状、緊急度、重症度を考慮し適切な医療機関搬送に努めていきたいと思っています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年8月23日（金）
担当者 ボールパーク施設課 後藤 明夫

おはようございます。ボールパーク施設課の後藤です。

私は平成30年7月豪雨で被災した広島県東広島市に災害復旧事業の補助という形で昨年9月から今年の3月までの7ヶ月間派遣されていました。派遣された当初、東広島市役所周辺では被害があまり無かったようですが、ひとたび山の方に目を向ければ、土砂崩れを起こしている箇所が一目瞭然でした。遠目から見ている分には被害の大きさは想像しにくいものでしたが、真下から見上げると相当な被害が発生したことが容易に想像でき、自然の恐ろしさを目の当たりにしました。当時被災の状況はテレビ等の報道で見聞きしており、ある程度は想像していましたが、比べ物にならないほどのインパクトでした。被害は土砂崩れ、土石流に起因するものも数多くありましたが、土石流以外にも、普段は少量の水しか流れていないような河川の護岸が無くなって農地が消失していたり、橋が無くなっていたり、道路の全面、片側が無くなって通行止めになっている様な状況でした。言葉では中々伝わらないと思うので、気になった方は声をかけていただければ現場の写真等をお見せしながら説明します。

私はそのような河川や道路をどの様に直せば再度被災しないか、どの様な施工が出来るかということを経済復旧の考え方、広島県の考え方、東広島市の考え方に基づき東広島市の職員や他の市町村から応援で来ている職員の方々と協力しながら復旧に向けて業務を行っていました。3月末まで東広島市にいましたが、国や県管理の河川や道路については復旧工事が徐々に行われていましたが、東広島市の復旧工事は未着手だったので1日も早い復旧・復興を願うばかりです。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年8月26日(月)
担当者 社会教育課主査 山田 孝博

おはようございます。社会教育課の山田孝博です。

昨日、総合体育館におきまして元気フェスティバルが開催されました。参加された関係課の皆さま、またご協力いただいた課のみなさま、そしてご来場いただいたみなさま大変ありがとうございます。

この場をお借りしてお礼申し上げます。

元気フェスティバルは、市内で活動されている様々な団体の活動発表の場であり、来場される方、また各団体間において新たな学びのへの出会いや気づきを提供し北広島市の元気を発信する場となっています。

学びというところでは、私も東広島市への災害応援で派遣された4か月間で、色々な経験をさせてもらいました。中でも印象に残っていることが3つあります。

一つ目は子どもの成長のはやさです。

私には5歳と2歳の子がおり、時々電話をすると、下の子がどんどん会話ができるようになっていたことに驚かされました。日々何となく過ごしていると気が付かなかったかもしれず、子どもに向き合ながら、成長を楽しんでいきたいと思わせてくれる出来事でした。

二つ目は雪のない冬です。

例年は東広島市の中心部でも積雪があるそうですが、暖冬傾向で降雪もほとんどありませんでした。

北広島市で生まれ育ち、北広島市役所に入庁した私にとって初めて経験する雪のない生活で、北広島とは違うまとわりつくような寒さも体験でき、とても新鮮でした。

三つめは情報伝達の難しさです。

東広島市での業務は、耕作地の復旧ができていない農業者の方と接する機会が多く、中には市からの情報が正確に伝わらずに復旧の手続きが遅れ、災害後の一連の市の対応に対して不満につながっていた事例もありました。

東広島市でも災害復旧に関しては、色々な方法で周知をされたと思いますが、災害という特殊な環境のなか、情報伝達がうまくいかない事例もあったのかと思います。

北広島市の業務でも、いろいろな場面で情報発信をおこなっています。基本的なことですが、相手にどう伝わるのかといったことを意識して業務を進めていこうと心を新たにしたところでは。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年8月27日(火)
担当者 環境課主事 佐藤 大樹

おはようございます。環境課環境保全担当の佐藤です。

私は昨年12月から今年の3月までの4か月間、豪雨により被災した姉妹都市である東広島市において災害派遣業務に従事しました。

主な業務内容として、災害廃棄物の処理に係る業務でした。災害廃棄物処理の流れとして、被災現場から発生した災害廃棄物は、市内に複数箇所設置した一次仮置場で受入を行い、粗選別した後に二次仮置場へと運搬されます。そして、処分に向けた破碎等前処理を実施し、可能な限り再資源化を行い、処理・処分量の低減を図ります。再資源化できないものは、焼却処理・埋立処分等を行います。

災害廃棄物を処理するにあたって、適正かつ迅速に処理することが一番に求められます。そのためには、他部署や施設、業者といった関係機関との「調整」を密に行うことが重要だということを改めて再認識しました。

また、仕事以外でも、プライベートで職員の方々と様々な交流をすることができました。派遣業務がなければ得ることのできないつながりや経験をすることができたので、この4か月は私にとってかけがえのない人生財産となりました。

現在は主にヒグマ対応で各関係機関との「調整」を密に行っています。緊張感のある毎日ですが、わたくしの座右の銘である愚公移山の精神で精力的に業務に努めます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心に抱く大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年8月28(水)
担当者 企画課主査 小澤 孝裕

おはようございます。企画課の小澤です。

私は、今年の4月に財務省北海道財務局から出向で参りました。

北海道財務局とはどういう役所なのかご存知ない方も多いと思いますので、紹介させていただきますと思います。

北海道財務局とは、財務省という国の機関の北海道における総合的な出先機関です。

財務省は、国の予算の編成、国の税制の調査や企画・立案、国有財産の管理処分等、国の経済と国民生活に深い関係をもつ重要な財政・税制の仕事を担当しておりますが、そのうち、北海道財務局では、財政や国有財産等に関する仕事を行っているほか、金融庁から委任を受けて、民間金融機関等の検査・監督も行っています。

また、財務省や金融庁の施策を地域の皆さまにお伝えするとともに、北海道における意見・要望や地域経済の実態を財務省及び金融庁に的確かつ迅速に伝達しています。

最近では、「広報活動」や「地域との連携」に力を入れており、国の財政について今まで広報が十分に行き渡っていなかった子育て世代や若年層向けの広報や、地方創生で困っている市町村の支援等を行ったりしています。

また、地方創生支援の一環として、地方創生コンシェルジュ制度というものがあり、国に相談したいけど、窓口がわからないとか、補助制度がたくさんありすぎてなにが使えるかわからないといった相談が地方創生コンシェルジュを通じてできるようになっております。

北海道財務局においても地方創生コンシェルジュがおりますので、業務等で国に相談したい等ございましたら、私までご連絡いただければと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年8月29日(木)

担当者 政策広報課 野口 篤

おはようございます。企画財政部政策広報課の野口篤です。

今年の4月に採用され、もうすぐ5ヶ月が経とうとしております。新しい職場で慣れないことも多い中、上司や同僚の皆さんに支えられながら日々の業務に当たっています。この場をお借りして、いつもありがとうございます。

本日は、私が北広島市職員として働いていく上でこの先心がけていきたいことについてお話しさせていただきます。

私は、大学卒業後から今年の3月までの7年間、道東にある釧路管内白糠町で役場職員として働いていました。人口も職員数も北広島と比べると少ない町でしたが、その分職場内の繋がりや地域との繋がり強い場所だったのかな、と今では感じています。

今年の春に町から市へ職場が変わって、同じ地方自治体でも担当する事務の幅の違いを日々感じています。同時に自分が担当する業務だけにとらわれていては、市全体の動きや他の部署の動きに気付けなくなるのでは、という危機感も感じています。市役所内部ではそれぞれの部署に分かれて業務をしていますが、外から見れば皆「市役所の人」と思われているのではないのでしょうか。何か聞かれたときに「担当じゃないから知りません。」なんて答えをしないように、職員はもちろん市役所外の人達とも顔の見える関係を築き、様々な情報・知識を蓄えていけるよう頑張っていきたいと思えます。これからもどうぞよろしく願いいたします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年8月30日（金）
担当者 都市計画課 小八木 香菜子

おはようございます。4月に北広島市役所に入庁いたしました、企画財政部都市計画課の小八木香菜子です。未だ一つ一つの業務に精一杯ではありますが、周囲の方々の支えやご指導のもと、多くの学びを得ながら、充実した毎日を過ごしております。

日々新しい経験で溢れていたこの五か月間の中でも、特に私の心に残っているのは、様々な上司、先輩方から「分からないことや困ったことがあれば遠慮せず聞いて」と言っていただけたことです。初めの頃、このくらいの業務は自分一人でこなすべきなのではないか、と考えたり、忙しそうな先輩の様子から声をかけるのを躊躇したまま、時間が経ってしまうといったことがままありました。しかし、この言葉をかけていただき、当たり前のことではあるのですが、自分一人で悩んで無闇に時間を費やすより、先人に聞き学ばせていただくこと、そしてそこで得た学びを生かしていくことこそが大切なのだと、改めて気が付くことが出来ました。

まずは自分で調べ解決することを試みることで、一度聞いたことは覚えるよう心がけること、この2点を順守しつつ、これからも分からないことや気になった点について、隙を見ては、多く質問をさせていただくことと思います。

何かとご迷惑をおかけいたしますが、これからの北広島市を支えていく立派な職員を目指し、また、市民の皆様は勿論、職員の皆様のお役にも立てるよう、精進いたしますので、今後ともよろしく願いいたします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。